

2. 圏域別(仙南圏域)

(1)位置・地勢

当該圏域は県の南側に位置しており、白石市、角田市、川崎町、村田町、蔵王町、柴田町、大河原町、七ヶ宿町、丸森町の2市7町から構成される。

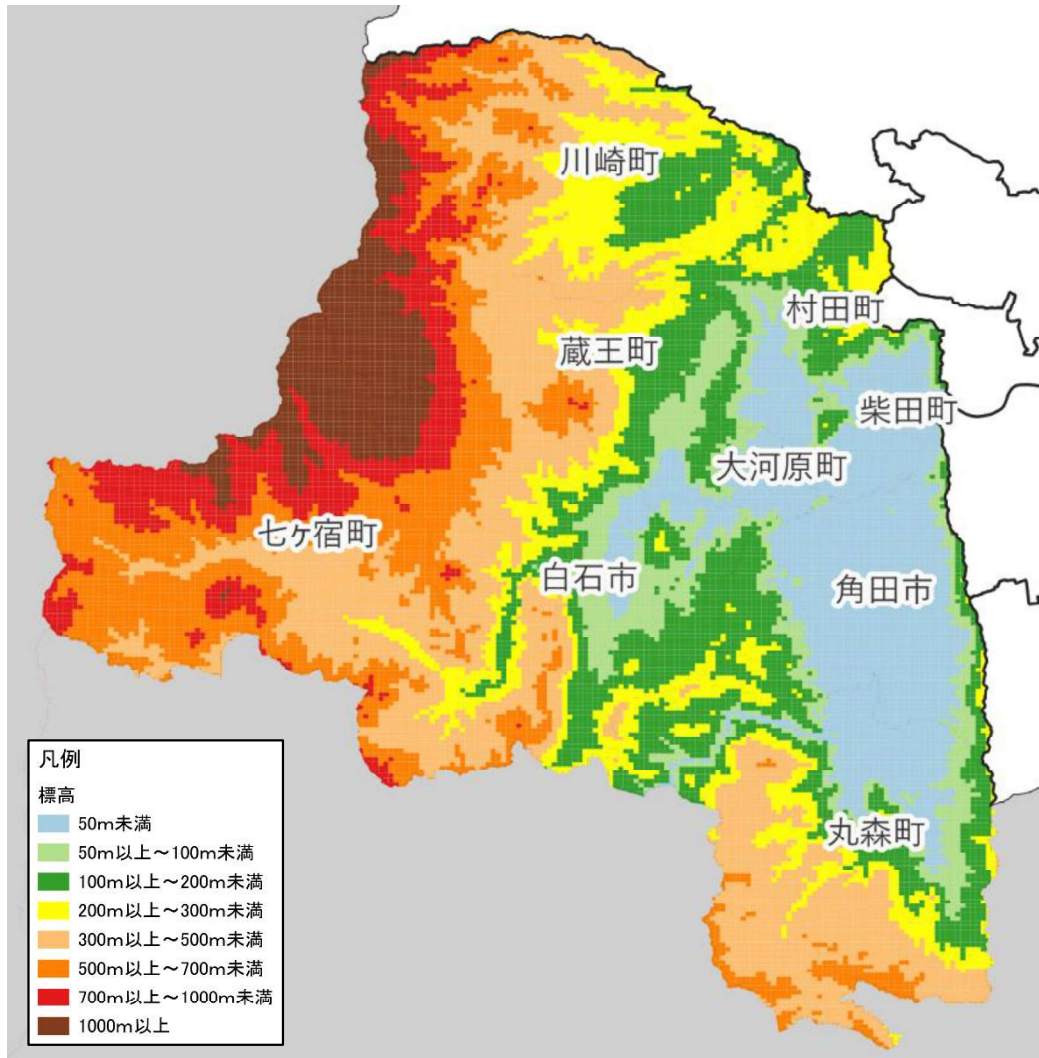


図 圏域の位置、地勢

出典：国土数値情報

(2)人口の推移等

当該圏域の人口は平成2年から令和2年まで減少傾向にある。今後も継続して減少する見込みであり、令和12年には146千人となることが予測される。

一方、高齢化率は増加傾向にあり、令和12年には38.4%と令和2年から4.4ポイント増加する見込みである。

県内外の転入、転出者数はほぼ横ばいで推移しているが、毎年一貫して転出者数が転入者数を上回っており、社会増減数は全ての年度でマイナスとなっている。

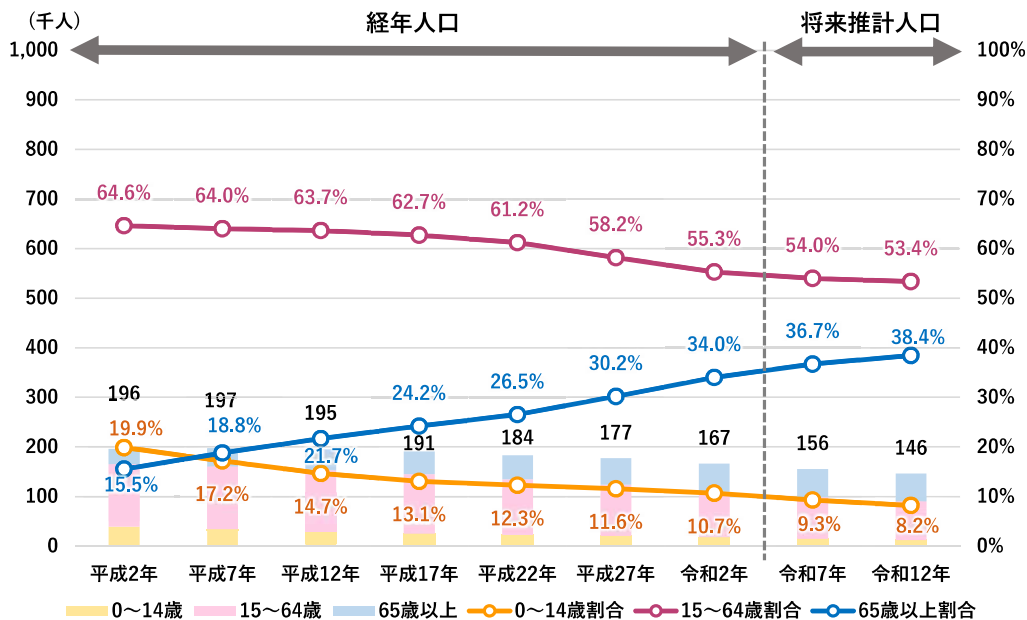


図 当該圏域の人口推移

※平成2年～平成22年では総数のみ「年齢不詳人口」を含む

出典：国勢調査 男女別人口及び年齢別割合 第6表（平成2年～令和2年）

国立社会保障・人口問題研究所

日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）

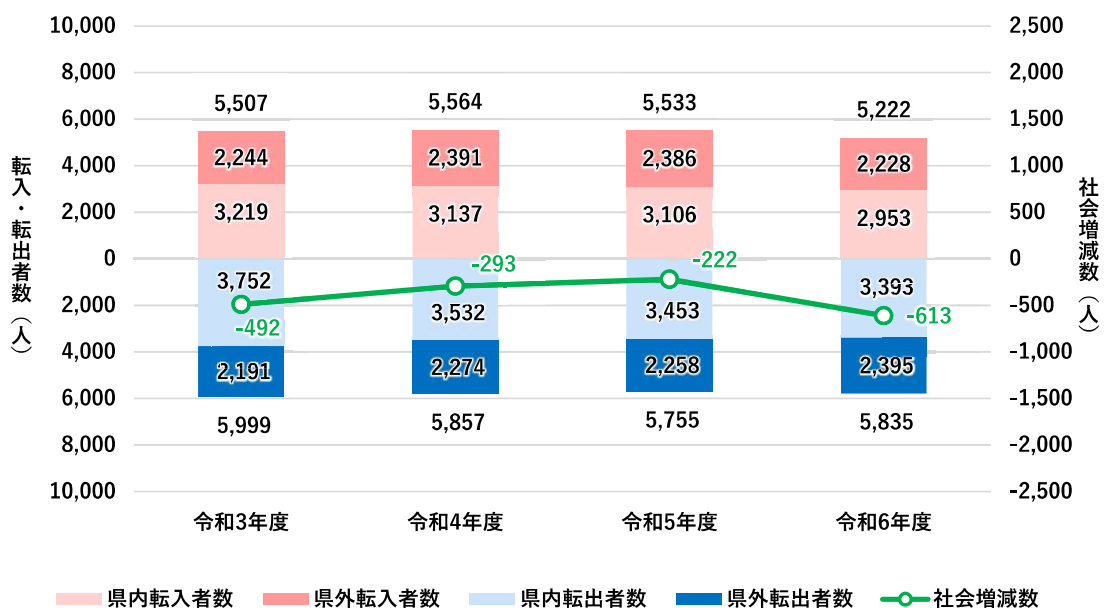


図 当該圏域の社会増減の推移

※転入・転出者数の総数には「職権記載・その他」を含む

出典：国勢調査 推計人口年報 第1表（令和3年～令和6年）

(3)流動等

1)通勤・通学流動

通勤流動は、白石市（62.8%）、角田市（56.1%）、川崎町（59.8%）、蔵王町（52.2%）、丸森町（51.1%）で半数以上の人口が自市町内で移動している。

通学流動は、柴田町（50.0%）で半数の人口が自町内で移動している。

近隣市町村も含めた市町村間の通勤通学移動量について、仙台市へは白石市、角田市、大河原町、柴田町、川崎町から1,000人以上が移動している。中でも柴田町は3,220人が移動しており、同町からは他にも角田市、大河原町、名取市、岩沼市へ1,000人以上が移動している。加えて、大河原町からも白石市、柴田町へ1,000人以上が移動している。

表 通勤、通学流動量合計(令和2年)

移動量（通勤+通学）

単位：人

通勤・通学先→ 居住地↓	仙南圏域									近隣市町村					
	白石市	角田市	蔵王町	七ヶ宿町	大河原町	村田町	柴田町	川崎町	丸森町	仙台市	名取市	岩沼市	亘理町	山元町	
仙南圏域	白石市	10,497	546	857	134	823	223	590	42	113	1,300	235	291	90	58
	角田市	479	7,884	117	13	600	177	917	24	845	1,063	357	464	438	252
	蔵王町	851	139	3,090	13	381	319	273	74	20	498	126	125	42	10
	七ヶ宿町	57	4	12	524	11	4	3	1	1	15	3			1
	大河原町	1,029	916	495	17	4,414	567	1,249	91	154	1,530	442	501	190	60
	村田町	296	210	262	6	566	2,311	395	168	26	686	203	245	66	21
	柴田町	884	1,593	298	6	1,484	511	8,650	85	189	3,220	1,029	1,331	491	128
	川崎町	69	37	92		110	173	77	2,709	3	1,045	104	55	14	1
	丸森町	213	1,043	32	1	151	27	169	2	3,036	265	82	106	97	89
近隣市町村	仙台市	811	600	244	17	759	404	1,374	521	89	481,024	12,001	4,117	747	241
	名取市	325	361	75	6	314	148	599	67	35	16,834	15,101	2,795	539	155
	岩沼市	350	570	72	1	374	138	757	25	53	5,703	2,433	8,716	887	204
	亘理町	176	657	50		270	106	554	15	106	3,371	1,325	1,943	6,813	804
	山元町	54	273	10	2	68	9	100	4	64	756	250	365	548	2,791

出典：出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）

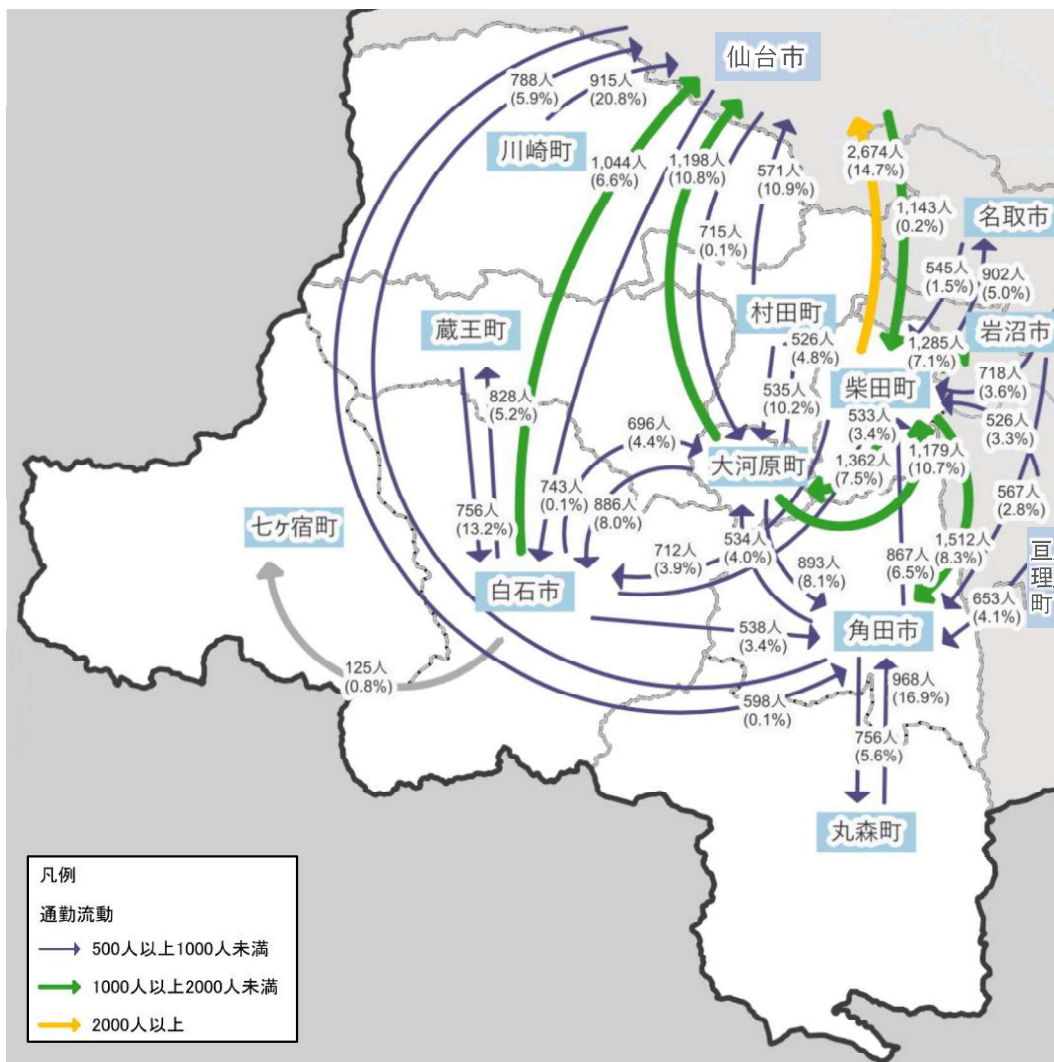


図 通勤流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表(令和2年)

※500人未満非表示

ただし各市町村における最大値については表示

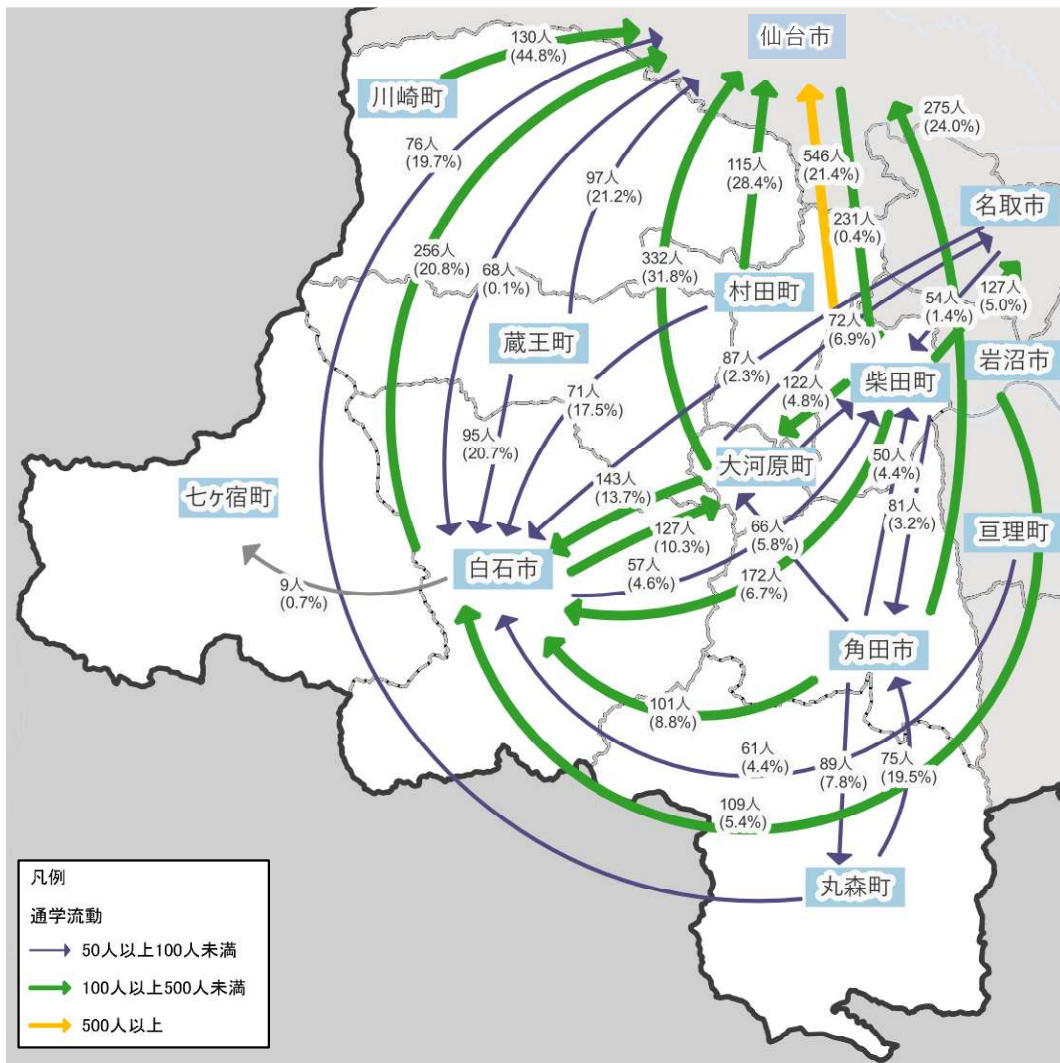


図 通学流動(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第3表（令和2年）
 ※50人未満非表示
 ただし各市町村における最大値については表示

2)通勤・通学時の移動手段

当該圏域の通勤、通学時の移動手段は、自家用車が74.9%と最も高く、次いで徒歩・自転車が11.5%と続いている。公共交通が10.6%（乗合バス等（1.4%）、鉄道（9.2%））を占め、公共交通の分担率が最も高い仙台圏域（28.8%）と18.2ポイントの差がある。

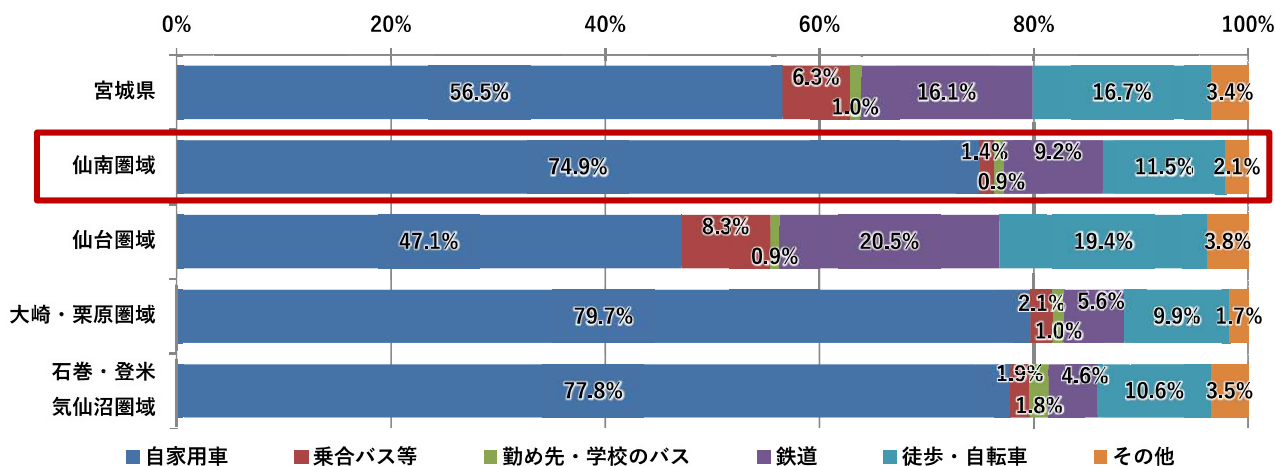


図 通勤、通学時の移動手段(令和2年)

出典：国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計 第18表（令和2年）

3) 買い物流動(最寄り品)

市町村間をまたぐ買い物流動は、白石市、角田市、大河原町、柴田町に集まる傾向がある。一方で、蔵王町は大河原町、白石市、村田町の3市町に分散する傾向がある。市町村間をまたぐ買い物流動の傾向が強いのは、七ヶ宿町から白石市への移動(92.9%)と川崎町から仙台市への移動(51.1%)となっている。

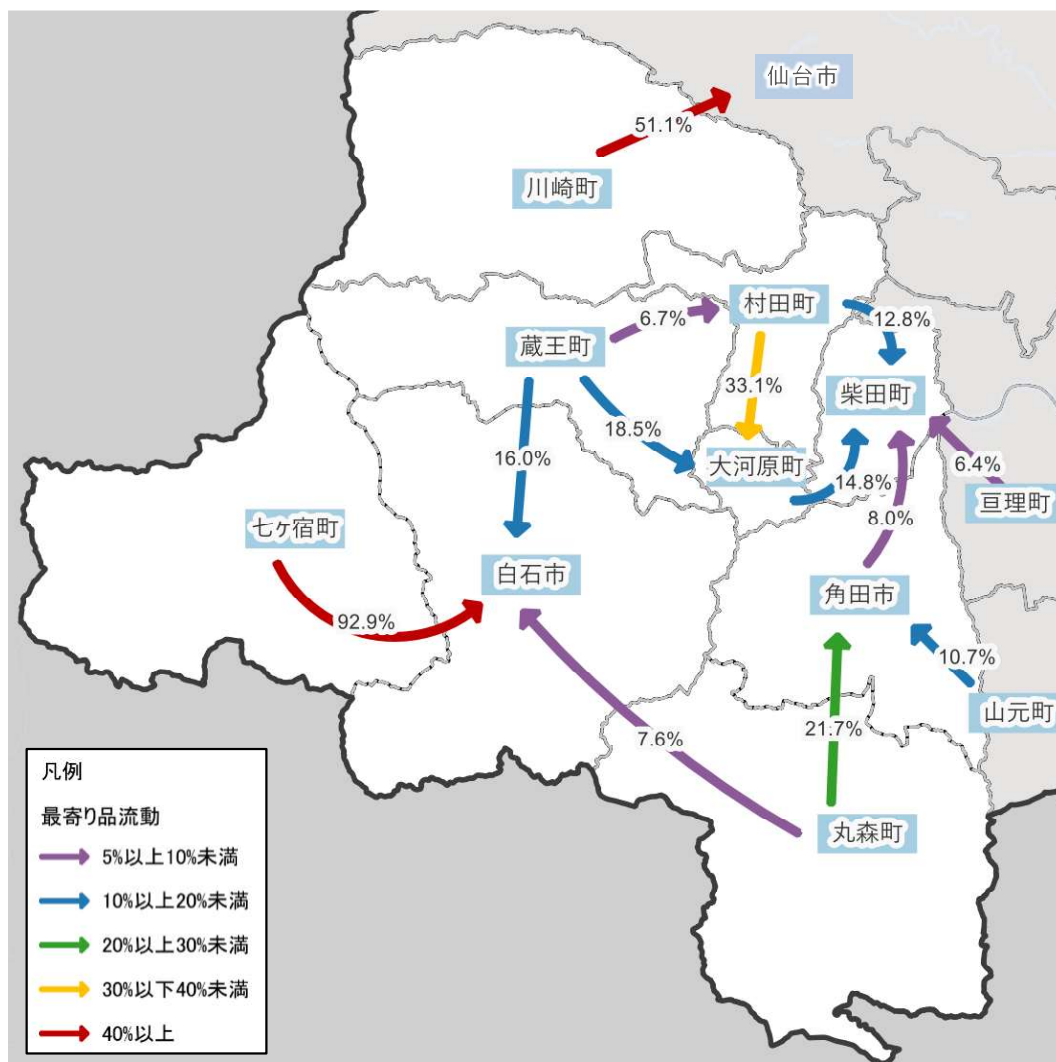


図 買い物流動(最寄り品、令和3年度)

出典：消費購買動向調査(令和3年度)

※5%未満の流動は非表示

※図中の割合は消費購買動向調査(サンプル調査)の回答者を母数としており、
該当市町村の総人口を母数とするものではない点に留意

※七ヶ宿町はサンプル数 n=14 であり、サンプル数が相対的に少ない割合である点に留意

4) 観光入り込み客数

施設利用者数は、国営みちのく杜の湖畔公園で50～100万人となっているほか、蔵王（刈田山頂）や遠刈田温泉で10～50万人の施設利用がみられる。

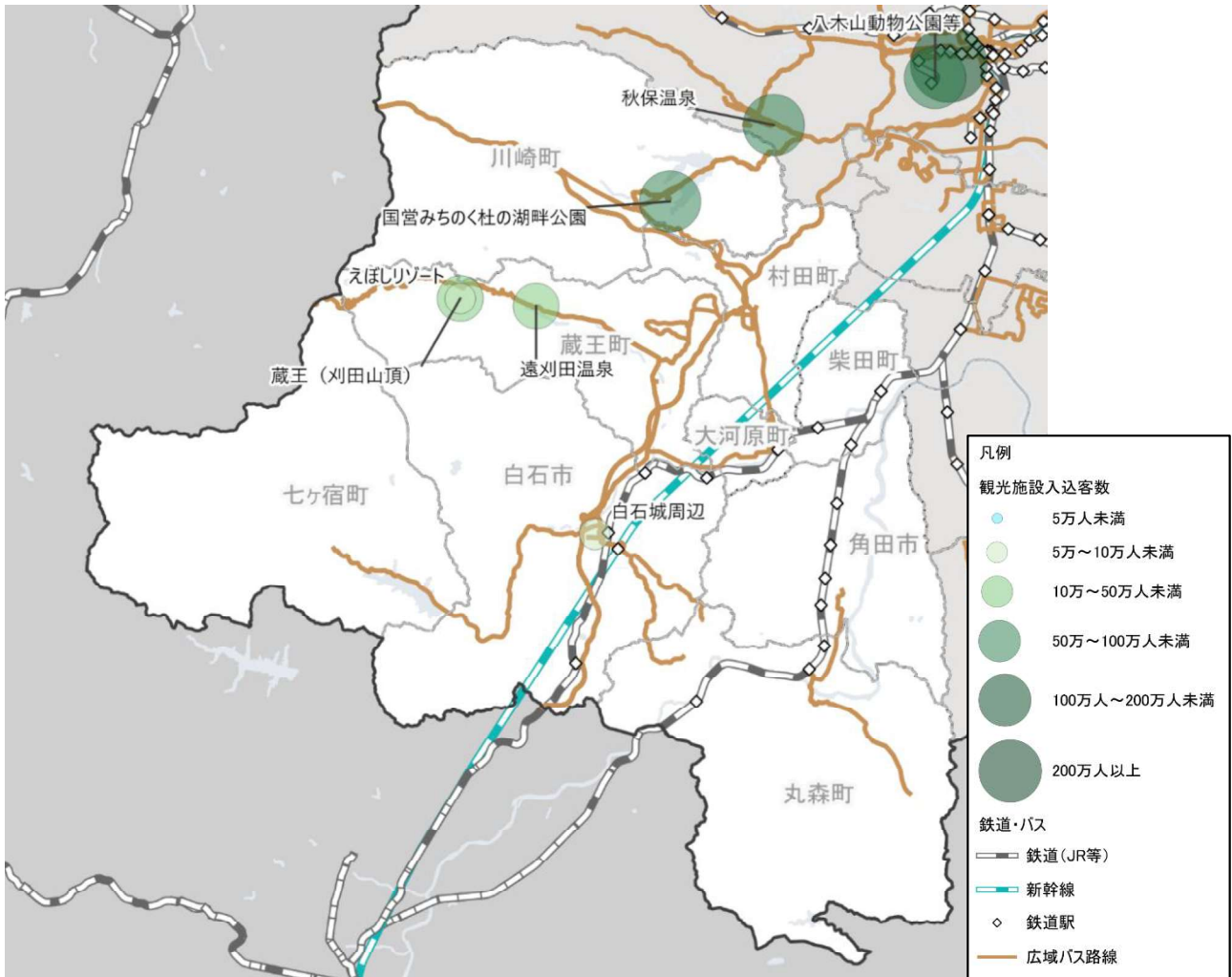


図 施設利用者数(令和5年)

出典：宮城県観光統計概要 表8 (令和5年)